

YMCA News

3



「思いでの学童」



私は、YMCAに1年生から6年生まで通っていました。初めてYMCAに通ったときはとても泣き虫でした。今、思えばなぜ泣いていたのかわかりません。私は、もともと泣き虫で保育園のときも、お母さんとお父さんとバイバイできずに泣いていました。学校からYMCAの送迎の車に乗るときにも大泣きをしてしまいました。

でも、1年生の夏休みが終わったころには、学校からYMCAの送迎の車に乗るときにも泣くことがなく、両親のおむかえを待つことができました。それは、夏休みの間、ほとんどの日にYMCAに通っていたからです。そのおかげで、泣くことを忘れるほど、毎日楽しい時間を過ごすことができたからだと思います。涙が止まったのもYMCAのおかげだと思っています。

2年生になってからは、YMCAのスキーキャンプにも参加することができました。生まれて初めてお母さん、お父さんと離れて、お泊り

を体験しましたが、涙を出すことは無く、とても楽しかったことを覚えています。

私は、6年間YMCAにいてたくさんの事を学びました。例えば、人を思う優しさや、素直にあやまる事など社会の基本を教わりました。また、楽しいゲームや遊びも知る事ができました。他の学校や違う学年の友だちもたくさんできてうれしかったです。コロナがなかったころは、お菓子作りなどもすることができてとても楽しかったです。



私はYMCAに通って、まず安全第一を考えながら、たくさんの楽しみ方や学び方を教えてもらいました。学校でつらいことがあってもYMCAに行けばつらいことも忘れてしまうくらい楽しい学童でした。

ぷらいむ・たいむ前潟校6年 土橋一葵

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

日帰りスキースクール報告



スクールA

こんにちは!岩手大学2年の佐藤桃華です。リーダー名はまめふくといいます!私から2月5日に行われたスキースクールAについて報告させていただきます。今回のスキースクールAには子どもたち25名、リーダー12名の計37名が参加しました。

行きのバスで行ったバスプログラムでは、○×クイズで同じスキーグループの子どもたちやリーダーと一緒に答えを予想したり、大喜利大会で、はなこリーダーの告白を成功させるための方法をみんなで考えてみると、どのグループも盛り上がりつつある様子でした。

スキーレッスンでは、初めてスキーに挑戦した子どもたちは、滑ることの楽しさを感じたのか、カニ歩きで斜面を何度も登り滑っていました。スキーをやったことがある子どもたちは、長い距離を滑ったり、スピードを出して滑ることに楽しさを感じている様子でした。

スキーをすることが本当に楽しかったのか、午前中のレッスンが始まってすぐに「来年はキャンプに行きたい!」と話している子どももいました。子どもたちは1本滑る毎にできることが増え、自信に満ち溢れた様子でした。

スキースクールAに参加して、子どもたちの成長が沢山見られた1日でした。慣れないスキーブーツを履いて階段を登ること、重いスキー板を自分で持って移動することなど、子どもたちにとって大変なこともあったと思いますが、子どもたちの様子から自分の力でできる!頑張れる!というたくましさを感じました。また来年も子どもたちと一緒にスキーできる日を楽しみにしています

岩手大学 佐藤桃華(まめふくリーダー)

スクールB

冬と言えばスキーだ!岩手大学3年の藤根奈実子です!子どもたちからはシャベルリーダーと呼ばれています!私からは2月19日(日)に安比高原スキー場で行われた日帰りスキーBの報告をさせていただきます。今回の日帰りスキーBでは、スキーを心待ちにしていたドキドキワクワクの子どもたち23人、元気いっぱいのリーダー9人、スタッフ3人の計45人が参加しました。

子どもたちはスキーの服装や用具の準備がスムーズで、「早く滑りたい!」というみんなの思いが伝わってくるようでした。レッスンが終わる頃にはどのグループも「たくさん滑れたよ!」「頑張ったね!」という声飛び交っていました。今回初めてスキーをした子どもも、最後にはリフトに乗って、安全に滑り降りてくることができました。

私が持った中級のグループでは、スキー場に着くと「ゴンドラに乗りたい!」とほとんどの子が言っていました。中には「ゴンドラに乗りたくても、頂上に行くのは急だから怖い。」と言っている子どももいました。しかし、午前中にグループの中で声を掛け合いながら滑ることで、みんなで滑ることに安心感を覚え、午後には全員でゴンドラに乗り頂上に行くことができました。

滑り終えたとき、全員に喜びと自信の満面の笑みが溢れていました。みんなと一緒にいるからこそ、乗り越えられる事がある。子どもたちにとっても私自身にとっても貴重な機会になりました。ありがとうございました。

岩手大学 藤根奈実子(シャベルリーダー)



【活動報告】ちきゅうと、あそぼう



1月野外活動は1月29日(日)に中央公園で「われら!わんぱく雪遊び隊♪」と題して元気いっぱいに雪遊びをしました。今回は笑顔いっぱいの子どもたち26人、元気いっぱいのリーダー12人、いつも仲良しなスタッフ2人の計40人で活動しました。

もうすぐバレンタインのこの時期!午前のプログラムではグループごとに言葉を集め、告白を考えました。公園のあちこちにあるミッションボックスを探し、グループみんなでミッションをクリアします。そうして集めた言葉たちを組み合わせ、告白を考えて、全員の前で発表しました。息を合わせて「せーの!」で発表したり、ハート型の雪をプレゼントしたり、1フレーズずつ分担して言葉を伝えたり、中にはツンデレな告白も♡グループごとにオリジナリティ溢れる告白ができました。

ミッションをクリアしながら子どもたちは雪遊びを存分に楽しみ、午後からはそり遊びもしました。そりで遊ぶためには長い階段を登らなければなりません。そんなとき、お友達と声を掛け合いながら、時には協力しながら階段を上る子どもたちの姿が特に印象的でした。気温は氷点下に近く寒い日でしたが、寒さを忘れ子どもたちは元気いっぱいに冬の自然を堪能し、笑顔溢れる一日になりました。

私自身、野外活動のメインリーダーを務めさせていただき、これまで以上に多くの学びを得ることができました。今後も子どもたちとの楽しく安全な野外活動ができるよう、頑張っていきたいと思います。

岩手大学 藤根奈実子(シャベルリーダー)



【活動報告】サンデースクール



2月サンデースクールは、「“ピッタリ”を目指せ モルック大作戦!」を2月19日(日)に向中野センターで開催しました。参加人数は子ども8名・リーダー15名の計23名でした。

ミーティング準備の段階では、「モルックを通して一人一人が輝き、新しいことに挑戦し、周りを認め合ってほしい!」を目標に掲げて取り組みました。リーダーは半数以上が大学1年生のフレッシュなメンバーでした。先輩リーダーと協力して子どもたちが楽しむプログラムを考えて実践しました。

前日準備ではタイムスケジュールとプログラム内容を入念に確認しました。本番当日は、少し緊張してきた子どもたちにリーダーが積極的に声をかけて、開始前までに子どもたちの楽しんでいる様子が見られました。モルックの道具のペットボトルピンを作り始めるとそれぞれ自分のアイデアを出してリーダーといっしょに作っていました。ミニゲームとモルックでは、子どもたち全員でゲームをクリアするというものでした。幼児から小学校6年生の子まで全員で協力しゲームをクリアすることが出来ました。このときに周りの子供たちの頑張りをくぎ付けになってみて、認めていました。

今回のサンデースクールでは、メインリーダーを務めさせていただきましたが、モルックを楽しみに来た子どもたちと、入念な準備をしてきたリーダーたちの頑張りが見えました。これからもYMCAの活動に参加してくれる子どもたちと楽しいを共有できるように取り組んでいきたいです。

岩手県立大学 加藤 瑞基(DDリーダー)



2023年3月5日(日)岩手県立大学体育館を会場として、盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーランを3年ぶりに開催しました。

当初は9月23日(祝)に行う予定でしたが、岩手県内での新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、延期としました。その後、感染状況はだいぶ収まってきましたが、3月の盛岡近郊はマラソンができる状況ではなく、岩手県立大学体育館にてレクリエーションを行い、順位を決定するという形式にシフトチェンジし、多くの学生ボランティアリーダーと地域協賛企業様・団体様のご支援をいただき、総勢200名強による大会となりました。

盛岡YMCAでは、インターナショナル・チャリティーランを行う意義の一つに、障がいの有無に関わらず、参加した方々が交流し、お互いを知るということを考えています。今回のインターナショナル・チャリティーランでは、年齢や障がいの有無に関わらず楽しむことの出来るプログラムや、そのプログラムの中で参加した方々が、一緒に時間を過ごすことで一つの輪が出来る内容を、ボランティアリーダーが中心となって考え、当日の運営をしてくれました。

その結果、地域障がい者施設の利用者と関係者の方々をはじめ、盛岡YMCAの児童クラブの子どもたちと保護者や、体育教室に通っている子どもたちとその保護者、地域サッカーチームの子どもたち、子ども食堂の利用者と関係者、ワイズメンズクラブ、盛岡YMCA学生リーダーOB・OGなど、まさに障がいを持っている方と、持っていない方が壁を作らず、レクリエーションにより交流をすることが出来た大会となりました。

その他、介護専門用具企業による車イス体験会や、障がい者施設の方々による手作りパンや野菜の販売、もりおかワイズメンズクラブの方による「富士宮やきそば」「黒仙石豆コーヒー」の販売もあり、プログラム内外で大変盛り上がりしました。

まだまだ岩手県内では、多くの人が集まり、イベントを開催することが憚られる状況にありますが、必要な対策を講じながら、YMCAとして出来ることを一つ一つ行い、地域運動につなげられればと考えています。

盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン担当 東森 聡



もりおかワイズメンズクラブの 工藤・シンティア・ラザロさんは、岩手県に在住する外国人の皆さんが中心のボランティアグループ「岩手サークルオブフレンズ」の代表でもあります。2月25日「岩手サークルオブフレンズ」によるチャリティイベントが盛岡市内のネパール料理のお店「NAMASTE レストラン&バー」で開催されました。フィリピン、イギリス、ペルー、ロシア、アメリカ等、多くの国の人々が参加しました。盛岡YMCAからは、もりおかワイズメンズクラブの皆さんとボランティアリーダーも参加。今回のイベントの益金(35,368円)は、日本YMCA同盟を通して世界120か国以上で人道支援・開発支援・政策提言を行っているNGO、ACT Alliance に送金され、トルコ・シリア大地震緊急支援に使われます。



盛岡YMCAリーダー紹介⑪



こんにちは!岩手県立大学2年のオニオンです!僕は岩手県奥州市の出身で、県職員などの公務員になるため、大学の総合政策学部で学習しています。特技は体が柔らかいことで、高校時代には長座体前屈で学校1位にもなったことがあります。

活動は、主に金曜サッカーや土曜サッカーに参加しています。これまでにサッカーの経験はないので、子供達と一緒に遊んだり、練習したりしながら日々上達を目指す日々です!サッカースクールでは、僕のようなサッカー未経験者のリーダーも多くいます。サッカースクールに限らず、その競技や種目をやったことが無くても気軽に参加できて、子供達と交流できる所がYMCAのスクールの良いところだと思います!

また毎週行う活動以外では、野外活動やサマープログラム、ウィンタープログラムなどの活動にも参加しています。最近だと、2月19日(土)に行われた日帰りスキーBに参加してきました。スキーを子供達に教えるのは初めてでとても緊張しましたが、最初は沢山転んでいた子供達が最後にはほとんど転ばずに滑れている様子を見て嬉しかったし、日帰りスキーBに来て子供達を教えることができ本当に良かったと思いました!

そしてオニオンの今年の目標は、「まだ行ったことのない活動に行く!!」です。体育教室や野外活動などには行ったことがありますが、まだサンデースクールや水泳教室などには参加したことがありません。色々な活動に行かないと分からないこともあるので、沢山の活動に参加したいなあと考えています。サンデースクールは、早速3月のリメイクポーチ作りに参加するので、すごく楽しみです!

来年からは3年生となり、YMCAでの活動も残すところあと2年ちょっとになりました。なので、悔いの残らないように今後の活動に取り組んでいきたいです!

岩手県立大学2年 菊池航太

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram

寒い冬も終わりが近づき、ぽかぽかと暖かい日が増え、春の訪れを感じます。早いもので、もうすぐ今年度も終わり、4月には新年度が始まりますね。今回で最後の食育コラムも食事の始まりと終わりの挨拶「いただきます」「ごちそうさま」の意味についてお話していきたいと思います。

「いただきます」の言葉の意味は、私たちが毎日食べている食材ひとつひとつの『命』を頂いている、感謝の気持ちを表しています。子供たちは、肉や魚・卵など加工されて食卓に並んでいる物が何から出来ているのかわかりません。豚肉は生きた豚が、生きて海や川で泳いでいる魚を、鶏が産んだ卵の『命』を頂戴しているから、私たちは毎日を元気に過ごせているのです。野菜や果物も生きています。それらの命が無ければ、私たちは生きていけません。だから、ありがとうございます、と感謝して頂こうという気持ちが込められているのです。また、私たちの食卓にごはんが並ぶまで、色々な人が関わっています。



この他にも多くの人の手によって、私たちの食事は作られています。

「ごちそうさま」は、漢字で書くと「ご馳走様」です。馳走とは走り回る、という意味があります。昔は、様々な食べ物を集めるために、海や山まで探しに行かなければいけませんでした。そういった人たちへ「走り回って下さってありがとう」という気持ちが込められているのです。現在でも多くの人の手があって、美味しく食事ができます。目に見えない所で、支えてくれている人がいる事も忘れないでください。

昔から言われ続けている「いただきます」「ごちそうさま」には、このように食事を支えてくれる人たちへの感謝の気持ちも含まれています。日頃、なんとなく言っていた食事の挨拶の中にも、感謝の気持ちが含まれている事で、ひと言ひと言を大切にしていきたいですね。

そして、最後になりますが、一年間食育コラムを読んで頂きありがとうございました。少しでも子どもたちの食に関する知識につながりますように。

盛岡市内保育所調理師
ぷらいむ・たいむ向中野校メンバー保護者
藤原 留美

表紙の写真から



3月5日(土)盛岡YMCAリーダー会の送別会が開催されました。
12名のリーダーが社会に巣立っていきました。

(2023年度2月新規会員) 敬称略

●2022年度 維持会員

深澤秀男、深澤多紀子、上條直美、神谷一夫